

私達は、防災教育をテーマに活動している3年生防災班です。この地域創りリーダー養成プログラムに防災班が出来て、今年度で3年目になります。そして、先輩方が作り上げた防災学習ツールである「防災ウォッチ」をさらに拡大し、また、今まで目を向けられていなかった被災後にも着目し、イベントを開催しました。

●第36回名古屋市防災展「防災ウォッチ」プロデュース●

(日程) 2017年8月19日(土) 20日(日)

(場所) 名古屋市港防災センター

(対象) 名古屋市内の未就学児・小学生

(人数) 2日間 1258名(内、子ども623名)

(学生スタッフ) 10名

「防災ウォッチ」とは、災害が起こった時に危険となるアイテムや環境、または身を守ってくれるお助けグッズなどを、子ども達にも学習しやすい妖怪としてキャラクター化した、子供向けの初等防災教育ツールのことです。このとりくみは、平成28年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」において、大学生部門の奨励賞を受賞しました。その結果、全国各地様々な機関・団体様からご要望をいただきました。そのうちの一つが名古屋市港防災センターの皆様からのプロデュースのご依頼でした。

毎年当センターで行われている防災展のメインイベントとして「防災ウォッチ」のキャラクター探しを実施したいというお話は、私たちにとってもとても嬉しいご提案でした。先輩方が作ってこられたのは、地震や津波、土砂災害に関するキャラクター



が多かったため、センター内の展示に即した新たな妖怪キャラクターを作成しました。

当日は班全員で名古屋市港防災センターへ赴き、2日間でなんと1258名ものお客様が来場してくださいました。私たちが作成した冊子を来てくれたお子様全員に配布しました。

館内では、冊子を持った子ども達が、キーワードが書かれた妖怪を探すために走り回っていました。皆とても楽しそうにキャラクターを探してくれていました。



また、キャラクターを探すことで、館内の隅々まで見て回ったり、見学したりする様子も伺え、企画は大成功でした。

また、今回の企画では、私たち独自のコーナーも実施しました。防災ウォッチのキャラクターたちが登場する「防災ヒーローショー」と「何が落ちたゲーム」です。「防災ヒーローショー」では、子ども達の前で劇を披露しました。館内にも掲示されている危険な妖怪が登場し、その妖怪から身を守るためのものをおたすけ妖怪として登場させて退治することで、幼稚園や小学校低学年の子ども達により分か



りやすくする工夫をしました。その後、「何が落ちたゲーム」を行いました。このゲームは

西宮市小学校区の防災訓練でも披露していますが、大変好評のプログラムです。名古屋でも変わらず楽しんでくれ、会場の雰囲気が一気に明るくなるのが感じられました。

コーナー終了後に子ども達に向けて簡単なテストを行ったところ、未就学児が多かったにも関わらず、ほぼ全員が正しく答えられており、知識の定着を実感しました。さらに、保護者向けのアンケートでは、子ども達が楽しみ、興味を持っていた様子を知ることが出来たほか、「家でもう一度防災について話し合おうと思った」「身近にある危険なもの、手助けになるものをキャラクターに変身させてなじみやすくした所が大変良い」といった意見を頂きました。

名古屋市港防災センターの方々からはイベント前後、最中とても暖かいお声がけをいただきました。このような貴重な経験をさせていただいたことに、



心から感謝申し上げます。ありがとうございました！

●心と体で防災マスター！

～身の守り方を考えよう●

(日程) 2017年11月25日(土)

(場所) 神戸女学院大学

(対象) 小学生親子

(人数) 4名

(学生スタッフ) 10名

名古屋のイベントが終わり、自主企画として実施したのは、地震が起こった後に着目した防災啓発イベントです。市内の小学校の行事と重なってしまい、思うような集客は上げられなかったですが、参加してくださったご家族にはとても満足していただきました。



まず、大学の最寄駅周辺のレンタルスペースをお借りして、地震についての勉強や、地震が起こった際にどのような

ものに気がつけたらよいか、また消火栓など紹介を行いました。そして、駅から大学までの道のりを一緒に歩き、自分の目で確認しながら、ハザードマップ作りを行いました。大学についてからは、自分たちが作成したオリジナルのハザードマップの発表を行い、危険なものが当たり前のように町に潜んでいることを感じてもらいました。



その後、非常食についての紹介を行いました。どの食材が長持ちするかクイズを通して、楽しみながら学んでもらいました。非常食を日常で食べることによって賞味期限切れを防ぐ、「ローリングストック法」の紹介も行いました。最後に紙食器づくりを行い、それを用いて非常食の試食も行いました。

名古屋でのイベントとは対照的に、小さなイベン



トではありましたが、子ども達一人ひとりに寄り添うことが出来て、中身の濃いイベントとなりました。参

加してくださったご家族の皆様、ありがとうございました。

私たちはイベント終了後も、さらに防災教育の大切さを伝えるため、「防災ウォッチ」の紙芝居作りを行っています。まだ完成はしていませんが、西宮市防災啓発課の皆様や、NPO 法人災害ボランティアネットワークの皆様、上ヶ原幼稚園の皆様にもアドバイスをいただきながら作成中です。より多くの子ども達に防災について学んでもらえるよう、頑張ります。また、私たちの後輩の防災班にも活動を継続していきたいです！



2017 西宮市小学校区防災訓練 「子ども防災コーナー」担当

2017年4月29日（土）：香櫨園小学校

参加者：約100名

2017年5月28日（日）：深津小学校

参加者：約100名

2017年11月12日（日）：津門小学校

参加者：約100名

2017年11月23日（日）：甲陽園小学校

参加者：約100名

2017年12月10日（日）：高須小学校

参加者：約100名

昨年度からの継続的な活動として、子ども向けの防災教育ツール「防災ウォッチ」を用い、西宮市防災啓発課主催の小学校区防災訓練における「子ども防災コーナー」を担当しました。「防災ウォッチ」とは、災害発生時に危険となるものや、身を守ってくれるものを妖怪に見立て、約40種のキャラクターを作成。企画段階から防災啓発課の方々と何度も打ち合わせを重ねていきました。



年度初めである4月の香櫨園小学校、5月の深津小学校では、昨年度から引き続き、防災ウォッチのキャラクターを用いた「〇×ゲーム」と「何が落ちたゲーム」を行いました。市の方のご協力のもと、熊本地震や地震が起こった際の室内の様子映像を見てもらいました。さらに、地震が起こ

った際に身の回りの危険なものや身を守ってくれるものを、子ども達にもっと分かりやすく理解してもらうため、まずは体を動かしながらの〇×ゲームを行いました。前のスクリーンに映し出される妖怪が、災害時に危険となるものなのか身を守ってくれるものかを考えてもらい、全員参加型の和気藹々とした雰囲気で行うことが出来ました。



その後、「何が落ちたゲーム」をしました。一昨年からの取り組みですが、子ども達の反応が特段良く、未就園児から小学生まで幅広い年代に楽しんでもらえる内容となっています。妖怪キャラクターをスクリーンに映し、その妖怪が災害時危険なものになる場合は、しゃがんで頭を守るポーズを、身を守ってくれるもの場合は、手ですくうポーズを、というルールもすぐに覚えてくれ、知識の定着を実感することができました。



夏ごろ、防災啓発課の方々と相談し、グラウンドで開催されている、消火器体験や煙体験などのほかのコーナーにもっと子ども達を誘導するような仕組みを組み込んだコーナーに変更することになりました。

各コーナーの体験内容に沿った妖怪キャラクターやクイズを設置し、その答えをキーワードとし

て探してきてもらう内容にしたため、グラウンド内に子ども達やご家族連れが散らばり、楽しそうに参加している様子が見られました。



特に、前回まで体育館で行っていたコーナーでの反省点を踏まえ、低学年用と高学年用で難易度を分けたコースの設定を行いました。そのため、低学年にはゲームの内容をより分かりやすく、高学年にはより深い防災知識を伝えることができました。



また、今年度も昨年度に引き続き、作成したキャラクターを「妖怪図鑑」にまとめ、子ども達をはじめとした、コーナーに参加してくださった全ての地域の方々へ毎回配布しました。小さいお子さんからご高齢の方まで、また小学校の先生などの幅広い世代の方々にご好評いただきました。

今年度の活動は、10月に予定されていた上ヶ原小学校での防災訓練が悪天候のため中止となり、全5校での開催となりました。次年度も引き続き地域創りリーダー養成プログラムで防災訓練を担当する予定です。「防災ウォッチ」を通して、西宮市の小学生への防災教育に貢献できるよう、頑張っていきたいと思います。

今年度の西宮市小学校区防災訓練「子ども防災コーナー」に関わってくださった全ての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。